

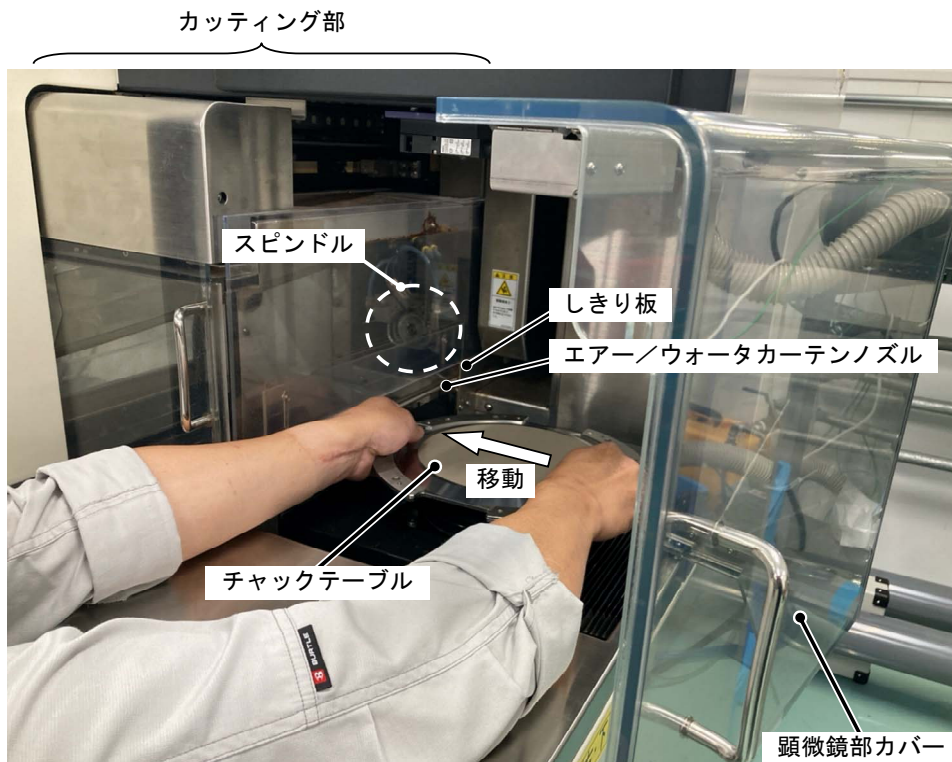
端面修正画面呼び出し時の安全対策ソフト リリースのお知らせ

対象機種

DAD322 DAD323 DAD3220 DAD3221 (製造番号が TK1***の装置) DAD3230
DAD3231 (製造番号が TL1***の装置) DAD3240 DAD3350 DAD3360 DAD3430
DAD3650 DAD3660

はじめに

DAD3350 でチャックテーブルを取り外そうとした際にボタン操作を誤り、顕微鏡部カバーを開けた後、チャックテーブルをつかんだ手が、スピンドル下まで移動しようとするチャックテーブルと、しきり板およびエア／ウォーターカーテンノズルとの間に挟まれ、左手の甲に軽い打撲を負う事故が発生しました。



事故の経緯

作業者は、メンテナンス目的でチャックテーブルを取り外すため、トップメニュー画面 [0.0] から『F6：マシンメンテナンス』ボタン→『F1：C/T取り外し (ON/OFF)』ボタンを押したつもりでしたが、実際は『F7：エンジニアリングメンテナンス』ボタン→『F1：端面修正』ボタンを押していました。

標準仕様の装置では、『F7：エンジニアリングメンテナンス』ボタンを押した時点で、お客様が設定可能なパスワードの中で最上位のエンジニアリングパスワードの入力が必要となっています。しかし、この装置には、アクセス可能な画面が作業者ごとに異なる特殊仕様が搭載されていました。さらに、この作業者には、エンジニアリングパスワードの入力無しで端面修正作業用の画面を呼び出せるアクセス権がありました。

対象機種仕様

対象機種では、エンジニアリングメンテナンス画面 [7.0] で『F1：端面修正』のボタンを押すと、顕微鏡部カバーが閉まっていることをチェックした後、チャックテーブル上にワークがないことをチェックし、その後 X 軸の移動が実行される仕様となっています。ただし、ワークの有無をチェックしている間に顕微鏡部カバーを開けてしまうと、顕微鏡部カバーが開いたまま X 軸が移動を開始します。

対象機種では、X 軸位置が原点から外れると X 軸を自動停止させる仕様になっています。ただし、停止までにタイムラグがあることにより、X 軸がカッティング部側に移動することがあります。（機種によって移動距離に差があります。）

対策ソフト仕様

事故の再発を防止するため、端面修正作業用の画面を呼び出す際に、チャックテーブル上にワークがないことをチェックした後、顕微鏡部カバーが閉まっていることを確認してから X 軸の移動を開始させる安全対策ソフトをリリースします。

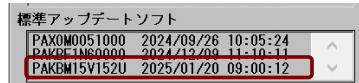
対策ソフトについて

対策ソフトは、ソフトバージョン 1.52 のパーツ No. PAKBM15V152U のパッチソフトに組み込まれています。

お客さまが保有している装置に対策ソフトをインストールする場合、対策ソフト、および弊社カスタマーエンジニアによるインストール作業は有償です。
ご希望のお客様は、弊社営業担当にご連絡ください。

【パッチソフトがインストールされているかどうか確認する方法】

ソフトバージョンが 1.52 の場合のみ、以下の方法でパッチソフトがインストールされているかどうかを装置の画面上で確認することができます。
ダイレクトオペレーションキーボードの『Aux.』ボタンを押して補助メニュー画面を呼び出し、標準アップデートソフトの欄のパーツ No.を確認します。PAKBM15V152*の末尾が「U」以降であれば、対策ソフトがインストールされています。
ソフトバージョンが 1.52 以外の場合は、弊社営業担当にお問い合わせください。



【最新機種への対応】

DAD324、および DAD3001 シリーズ (DAD3221* DAD3231* DAD3241 DAD3431 DAD3351 DAD3361 DAD3651 DAD3661) については、顕微鏡部カバーを開けた際、軸ドライバの停止信号による安全補助機能により X 軸は動きません。そのため、この対策ソフトの対象外となります。

※対象は製造番号が TK2001 以降、および TL2001 以降の装置

お問い合わせ

本件についてのお問い合わせは、弊社営業担当、またはカスタマーエンジニアまでお願いいたします。